

機能集約し効率化

鹿島
道路

技術開発総合C地鎮祭

和ハウス工
大設計施

鹿島道路は11日、埼玉県久喜市で（仮称）鹿島道路技術開発総合センター建設工事の地鎮祭を行った。技術研究所、本店機械部門、ICT部門を同センターに集約することによって、より効率的、かつスピード感を持って技術開発を行う。



完成イメージ（提供・大和ハウス）

同センターはS造4階建て、基礎免震工法、延べ4289平方メートル、研究所・事務所で構成し、久喜市高柳2600-1ほかの機械センター内



鋤入れする吉田社長

に建設する。設計監理は大和ハウス工業北関東一級建築士事務所、施工は大和ハウス工業埼玉支社建築事業部、16日に着工し、2023年11月10日の竣工を予定している。

地鎮祭には、鹿島の茅野正恭代表取締役副社長を来賓に招き、関係者25人が参加。鹿島道路の吉田英信社長が齋鋤（いみすき）を行い、関係者で玉ぐしをささげ、工事の安全を祈願した。



鋤入れする諏訪副本部長

あいさつに立った吉田社長は「技術開発総合センターは技術研究所や本店機械部門、ICT部門を1カ所に集約し、技術開発をより効率的、かつスピード感をもって実施することを目的としている。また、太陽光パネルや遮熱性窓ガラスなどで環境に配慮するとともに、BCP（事業継続計画）拠点としても機能する計画としている。この施設により、当社の技術開発、機械開発がさらに進み、インフラ整備により貢献できると確信している」と同センターに期待を寄せた。



あいさつする吉田社長

